

# 自動火災報知設備標準仕様書

## 1. 警戒区域

警戒区域番号					
区分					
階別又は部分名					
警戒区域の面積(m <sup>2</sup> )					
警戒区域の長辺の長さ(m)					

## 2. 感知器

### (1) 最大感知面積，取付面の高さ及びその場所

差動式スポット型

種別	感知面積	取付高さ	場所	警戒区域番号
1種	m <sup>2</sup>	m	階室	
2種	m <sup>2</sup>	m	階室	

定温式スポット型

種別	感知面積	取付高さ	場所	警戒区域番号
特種	m <sup>2</sup>	m	階室	
1種	m <sup>2</sup>	m	階室	
2種	m <sup>2</sup>	m	階室	

補償式スポット型

種別	感知面積	取付高さ	場所	警戒区域番号
1種	m <sup>2</sup>	m	階室	
2種	m <sup>2</sup>	m	階室	

煙 感 知 器 ( イオン化式 光電式)

種 別	感 知 面 積	取 付 高 さ	場 所	警 戒 区 域 番 号
1 種	m <sup>2</sup>	m	階 室	
2 種				
3 種	m <sup>2</sup>	m	階 室	

種別等 区 分	1 種 2 種	3 種	警 戒 区 域 番 号
階段等の取付 最大垂直距離	m	m	
廊下等の取付 最大歩行距離	m	m	

差 動 式 分 布 型 ( 空 気 管 式 )

種別等 区 分	1 種	2 種	3 種	警 戒 区 域 番 号
接 続 最 大 長 さ	m	m	m	
露 出 部 分 の 最 小 長 さ	m	m	m	
相 対 す る 空 気 管 の 最 大 相 互 間 隔	m	m	m	

(2) 感知器の設置方法

- 感知器の下端は、取付面の下方 0.3m (煙感知器にあっては、0.6m) 以内の位置に設ける。
- 感知器は、天井の屋内に面する部分及び天井裏の部分については、それぞれ壁又は取付面から 0.4m (差動式分布型感知器にあっては、0.6m) 以上突き出したはり等によって区画された部分ごとに設ける。
- 感知器 (差動式分布型のものを除く) は、換気口等の空気噴出し口から 1.5m 以上離れた位置に設ける。
- スポット型の感知器は、45 度以上傾斜させないように設ける。
- 点検困難な場所又は点検の際人命危険のある場所に差動式スポット型感知器を設ける場合は、当該場所の出入口付近に差動スポット試験器を設ける。
- 煙感知器は、次により設ける。
  - 天井高 2.3m 未満の居室又は床面積が 40 m<sup>2</sup> 未満の居室にあっては入口付近に設ける。

- 天井付近に吸気口のある居室にあつては、当該吸気口付近に設ける。
- 壁又ははりから 0.6m 以上離れた位置に設ける。
- 差動式分布型感知器（空気管式）は、次により設ける。
  - 検出部は、5 度以上傾斜させないように設ける。
  - 空気管の壁体等の貫通部に保護管及びブッシング等を設ける。
  - 空気管の布設に使用するメッセンジャーワイヤーは、ビニル被覆が施されたものとする。
  - 空気管は、（            ） cm ごとに（ステープル バインド線）で取付け面に固定する。
  - 空気管は、途中で分岐させないものとする。

(3) 感知器を設置しない場所及び理由

階 別 (階)	場 所	設 置 し な い 理 由

3. 受 信 機

- 受信機は、守衛室その他常時人がいる場所に設ける。

区 分	設 置 台 数	設 置 場 所
主 受 信 機	台	階 室 階 室
副 受 信 機	台	階 室 階 室

- 受信機の周囲には、操作及び点検に必要な空間を保有する。

型 式	保 有 空 間
<input type="checkbox"/> 自 立 型	<input type="checkbox"/> 操 作 面 ( ) m
<input type="checkbox"/> 壁 掛 型	<input type="checkbox"/> 側 面 ( ) m
	<input type="checkbox"/> 背 面 ( ) m

- 受信機の操作スイッチは、床面からの高さが  $\left[ \begin{matrix} 0.6 \\ 0.8 \end{matrix} \leq \quad \leq 1.5 \right]$  m の箇所に設ける。

- 受信機及び副受信機の付近には、次に掲げるものを備える。

- 取扱い説明書 (1部)                       受信機回路図 (1部)
- 警戒区域一覧図 (1部)                       附属予備品

- 受信機は、( 専用盤 複合防災盤 ) とし、警戒区域ごとの表示は、( 地図式 表示窓式 デジタル式 ) とする。

表 示 の 区 分	使 用 回 線 数	
	表 示 回 路 数	
自 動 火 災 報 知 設 備 表 示	/	回線
ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 設 備 表 示	/	回線
防 排 煙 設 備 表 示	/	回線
そ の 他 ( ) 表 示	/	回線

- 自動火災報知設備の作動と連動するため、受信機の移報用端子

(無電圧  a 接点  b 接点 ) を使用する。

連 動 装 置	<input type="checkbox"/> ( ) 設備連動起動 <input type="checkbox"/> 連 動 式 誘 導 灯 用 信 号 装 置 <input type="checkbox"/> そ の 他 ( )
---------	---

- 受信機の直近に相互通話設備を設ける。

- 相互通話設備は、( インターホン 非常電話 P型1級発信機 T型発信機 ) とする。

- 相互通話設備は、相互に、かつ、同時に通話することができるものとする。
- 相互通話設備の操作部は、床面からの高さが  $(0.8 \leq \quad \leq 1.5)$  m の箇所に設ける。
- 相互通話設備の配線は、耐熱配線 (  ) とする。

#### 4. 地区音響装置

地区音響装置の設置状況

設 置 階 (階)					
警 戒 区 域 番 号					
個 数	埋込型 (個)				
	露出型 (個)				
音 圧 (dB)					
1 の地区音響装置までの 最遠水平距離 (m)					

- 鳴動方式は、 (  一斉警報  地域別警報 ) とする。
- 2 以上の受信機が設置されている場合の地区音響装置は、相互に鳴動するものとする。

#### 5. 発信機及び表示灯

- 各階ごとに、その階の各部分から 1 の発信機までの歩行距離が最大となるのは、 (  階 ) の部分で (   $\leq 50$  ) m となる。
- 発信機は、床面からの高さが  $(0.8 \leq \quad \leq 1.5)$  m の箇所に設ける。
- 発信機の直近に赤色の灯火 (  AC  DC ) V を設ける。
- 赤色の灯火は、 (  ) 設備と兼用とする。

#### 6. 電源及び配線

##### (1) 電 源

- 電源は、 (  交流低圧屋内幹線  蓄電池 ) とし、配線の途中で他に分岐しないものとする。
- 電源の開閉器には、自動火災報知設備用のものである旨を表示する。

(2) 非常電源の種別

- 非常電源専用受電設備とする。
- 蓄電池設備とする。
- 受信機の子備電源の容量が、必要とする非常電源容量以上であるため非常電源とする。（容量計算書を添付する）

注 非常電源設備仕様書を添付する。

(3) 配線の種類及び施工方法

配線区分 系統区分	電線の名称及び太さ	施工方法
電源回路		
非常電源回路		
地区音響装置回路		
感知器回路		
発信機回路		
表示灯回路		

(4) 感知器回路の配線

- 感知器の信号回路は、常時開路式とし、容易に導通試験ができるように、回路の末端に（発信機 押しボタン 終端器）を設けるとともに、送り配線とする。
- 自動火災報知設備の配線に使用する電線とその他の電線とは、同一の管、ダクト等の中に設けないものとする。
- 感知器の信号回路の共通線は、1線につき最高（ ≤7）警戒区域とする。

(5) 配線の識別

- ア 共通線 色
- イ 表示線 色
- ウ ベル線 色
- エ 電話線 色
- オ 応答線 色

## 7. 添付図書

- |                                    |                                |                                    |
|------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 概要表       | <input type="checkbox"/> 付近見取図 | <input type="checkbox"/> 平面図       |
| <input type="checkbox"/> 建築物の配置図   | <input type="checkbox"/> 立面図   | <input type="checkbox"/> 仕上表       |
| <input type="checkbox"/> 断面図       | <input type="checkbox"/> 配線系統図 | <input type="checkbox"/> 配線図       |
| <input type="checkbox"/> 受電系統図     | <input type="checkbox"/> 機器構造図 | <input type="checkbox"/> 非常電源容量計算書 |
| <input type="checkbox"/> 非常電源設備仕様書 |                                |                                    |

## 8. その他

- (1) 工事中において、設計書と異なる工事をしようとする場合は、工事管理者及び所轄消防署の指示を受けて行うものとする。
- (2) 工事竣工後、消防職員立会いのうえ、所要の試験及び検査を受けるものとする。  
なお、完成検査時、検査の困難な部分については、あらかじめ、所轄消防署と連絡を取り中間検査を受けるものとする。

自動火災報知設備の概要表

区 分	型 式 又 は 種 別		設 置 個 数	型式番号	製造者名	製 造 年
感 知 器	差 動 式 ス ポ ッ ト 型	1 種	個			
		2 種	個			
	差 動 式 分 布 型 (空 気 管 式)	1 種	指定長 m 個			
		2 種	指定長 m 個			
		3 種	指定長 m 個			
	補 償 式 ス ポ ッ ト 型	1 種	個			
		2 種	個			
	定 温 式 ス ポ ッ ト 型	特種	℃ 個			
		1 種	℃ 個			
		2 種	℃ 個			
	煙 感 知 器 □イオン化式 □光電式 □非蓄積式 □蓄積型	1 種	個			
		2 種	個			
3 種		個				
発 信 機	型 級	埋込型	個			
		露出型	個			
受 信 機	型 級 回線 個/1回線		台			
	予備電源 型 DC V AH		個			
副受信機	型 回線		台			
中 継 器	型 式 ( )		個			
	予備電源 型 DC V AH		個			
音響装置	主ベル	鐘径 mm	AC DC V 個			
	地区ベル	鐘径 mm	AC DC V 個			
関連装置	□ ( ) 設備連動起動 □ガス漏れ火災警報設備					
工 事 者	電源及び配線		機 器 取 付			
そ の 他						